

第4期多摩区区民会議 第10回自然災害部会 摘録

□開催日時	平成26年1月20日(月) 午後6時00分～7時30分
□会 場	多摩区役所10階第1002会議室
□参加者	荒井部会長、細埜副部会長、安陪委員、石橋委員、岩崎委員、原田委員、 藤原委員、吉田委員(以上、自然災害部会員) 大津委員(委員長・コミュニティ部会)
危機管理担当	森田課長補佐
事務局	門間課長、奈良職員
コンサルタント	福田研究員、梅田研究員
傍聴者	1名

1 今後の日程及び報告書の確認の段取りについて

事務局が配布資料に基づき、今後の日程と報告書作成の段取りについて説明し、以下の点を確認、了承しました。

- 委員の日程調整の結果、2月下旬から3月上旬に開催を予定していた第7回全体会は延期する。
- その変わり、2月25日(火)に第11回自然災害部会を開催し、報告書の最終確認を行う。
- 報告書は全体会での了承が必要なため、3月中旬に第7回全体会を開催する。日程については、追って調整する。
- ただし、報告書は3月中に印刷しなくてはならないため、実質的な報告書の確認は、2月25日の部会が最終になる。
- 区長への報告書の提出については、3月26日(水)～28日(金)を想定するが、万一第7回全大会の開催日が近接する場合は、全体会の中で提出する可能性もある。

2 第4期多摩区区民会議報告書(案)について

事務局が配布資料に基づき、第4期多摩区区民会議報告書(案)の内容について説明し、意見交換を行った。

事務局 構成を変えるなど大きな修正は今日言ってもらわないと難しい。細かい言葉使いの修正などは、2月25日の部会までに事務局に言ってもらえれば修正は可能である。

細埜委員 「誰もが安全に避難所にたどり着けるしくみをつくる」(1ページ)、「誰もが安全に避難所にたどりつく仕組みをつくる」(10ページ)、「誰もが安全に避難所にたどり着けるしくみを作る」(18ページ)と、表現が統一されていない。「誰もが安全に避難所にたどり着けるしくみを作る」に統一する。

荒井部会長 17ページの図は、われわれはこれがマグネット方式のイメージということはわかるが、初めて見る人はこれが何かわからない。マグネット方式のイメージであるというキャプションを付けた方が良い。

これだけを配布するような内容になっているが、使い方の説明書を一緒に配布することを記載した方が良い。

石橋委員 いざという時に必要なことを周知するための道具としてこういうものが良いのではないかということを提言するわけで、書き方や何を記入するのかは、提言内容を行政が汲み取り、そこからどうしようという作業が始まる。あまり縛り付けるような内容を提言すると、自由度が無くなる。必要であるなら、「説明書を添付する」などの表現に

とどめた方が良い。

荒井部会長 「説明書とともに配布する」などの表現が良い。

石橋委員 17 ページタイトルは「区民会議からの提言」となっているが、リード文では「三つの提案を行う」となっている。「提言」と「提案」は統一した方が良い。

コンサル 前期の報告書では「報告」になっている。行政に対して「提言」という形は、区民会議としてあまりふさわしくないのではないかという議論も前期ではあったようだ。どちらの表現が良いか？

事務局 他区の区民会議では「提言」という言葉が一般的だ。第3期はいろいろな話し合いの中で考え方があり「報告」という言葉を用いた。多摩は「報告」でないといけないということではない。言葉の統一は必要だ。

コンサル 「提言」に統一する。

石橋委員 3 ページ「災害時要援護者支援」中の名簿の作成については、内閣府から各地方自治体に手揚げ方式ではなく行政が作成しなさいという方針が出されている。障がい者だけでなく、高齢者も含めての名簿を作成する。注釈で市の考え方を書いてもらいたい。

4 ページの上の図で、避難所が危険なときは広域避難所へ行きなさいという矢印がある。一時避難場所と広域避難場所を同じくくりにするのは難しいのではないか。枠の中に線を入れるなど分けないとややこしい。避難所が危険なときに広域避難場所に行くのが川崎市の仕組みならば仕方がないが、屋根のないところに行きなさいということなので、道理に合っていない印象もある。行政で確認してもらいたい。また、福祉避難所についても、避難所から福祉避難所に行くという矢印が合っても良い。

部会では、備蓄倉庫については話をしたが、防災倉庫の話はしていない。4 ページに防災倉庫とある。学校の空き教室も備蓄倉庫であり、防災倉庫ではないのではないか。

5 ページ(1) ①最後に、「防災に関する情報に触れられるようにすること」とあるが、情報に触れて、なおかつ、防災意識の向上を図る、そのためにはどんな手立てがあるかを討議してきた。この表現では、情報を提示すれば良いという意味で、マグネットや掲示板などの提言に結びつかない。

5 ページ(2) ①の「常に目に着く」は「常に目に付く」に訂正する。

5 ページ「同一の町内会であっても町丁によって指定が異なる」の「町丁」という意味がわかりづらい。

事務局 表現がわかりにくい。同じ町内会であっても複数の避難所が指定されているということを、わかりやすい文章に訂正する。

石橋委員 10 ページ(2) ①「ルート上の危険個所など記載されていない項目」の内容をカッコ書きで記載してはどうか。一番逃げられなくなるのは塀や樹木の倒壊だ。「記載されていない項目」では漠然とし過ぎている。また、「一般の区民」とあるが、あえて「一般」と付ける必要はない。「避難所の周知・徹底が必要」とあるが、周知と徹底が必要なので、「・」ではなく、「、」の方が良い。

12 ページ②「アンケートを実施し指定の有無を確認する予定であったが、次期以後の実施となった」とある。次の区民会議への申し送り事項として良いのか？「今後検討を実施する」など、実現しやすい表現に変えた方が良い。同ページ囲み中「高台にある避難所があり」という表現が回りくどいので、「避難所が高台にあるため」等わかりやすい表現に変える。

13 ページ①は、②がないので削除する。

15 ページ「多摩区内に在住する大学生との日常的な連携の推進については、コミュニ

ティ部会の検討に依るところとした。」とあり、コミュニティ部会に委ねた形になっているが、委ねていないのではないか。

コンサル 意見の中ではこういった意見があったが、確かに具体的にコミュニティ部会にお願いはしていない。表現を検討したい。

石橋委員 コミュニティの方で受けていないということになると困る。

16 ページ囲み中「明治大学の学生が3割多摩区内に住んでいる」とあるが、これは明治大学だけだったか？専修大学も合わせてではないか？

荒井部会長 岩崎委員の発言では、明治大学の学生と言っていたはずだ。

コンサル 岩崎委員に確認を取る。

石橋委員 18 ページ「備蓄品・非常持ち出し品、避難時の心得等といった一般的な情報ではない、回覧板を回覧するエリアに応じた～」の表現がわかりづらい。

コンサル わかりやすい表現に変える。

石橋委員 18 ページ提言2の本文中「川崎広報掲示板」の「市」が抜けているので、追記する。

身近な防災マップの作成のところに突然「公益施設」という表現が出て来る。一般的に「公共施設」は使うが、「公益施設」の内容がわかりづらい。また、「さらに地図に掲載する情報」は「掲載する内容」の方が良いのではないか。

19 ページに「HUG」という言葉が出て来る。これは解説を書かなくてはいけない。

全体を通して、自然災害の説明がどこにもない。地震も風水害もすべてが自然災害だ。前段の「自然災害部会」を設置した箇所で、自然災害についての解説を加えると同時に、提言だけを読む人のために「IV」章のどこかに自然災害についての解説を記載した方が良い。

コンサル 9 ページに部会の考え方として、部会では「自然災害の中でも地震について扱うこと」、「地震を扱うことによって地震以外の自然災害についても対応できること」を確認したことは記載されているが、「自然災害」の内容については説明がない。どこかに記載したい。

アンケートの扱いについては、どう記載したら良いか？16 ページには、大学や大学生の意向を把握することも記載されている。本当はこれが②になるのだが、実施できなかったため、①のみになっている。

石橋委員 大学や大学生の意向ではない。岩崎委員が言われたのは、町会の方がたは大学に何を望むのかを知りたいということで、町会向けのアンケートを実施しようとしたので、内容が違うのではないか。囲みの中も「大学として協力が可能な内容を探ってはどうか」とあるが、大学に情報を探るということではなく、大学から何を望んでいるのかを問いかけられたと理解している。検討した内容に合わせて訂正する。ここは、「具体的な内容や方法については、さらに検討の熟度を高める必要がある」という表現で、次期に委ねてはいないのでこの表現が良いのではないか。さらに、提言の一つとして入れた方が、行政としてはアンケートを行いやすいのではないか。

コンサル 19 ページ提言3に、町内会・自治会の大学に対する意向を把握するという項目を設け、アンケートの実施について記載する。

事務局 一時避難場所の選定状況についても、行政がアンケートを実施する際、区民会議の提案を受けたという形の方が実施しやすいので、提案に入っていると良い。

コンサル 18 ページ「身近な防災マップの作成」の中に、一時避難場所の選定状況を把握する旨を記載する。

荒井部会長 マンションの回覧板で、財団法人川崎市消防防災指導公社というところが作った

回覧板があった。全面が防災に関する内容の広報になっている。回覧板の作成については、財団などに作らせるか防災品の業者に作らせるか二通りの考え方がある。いざという時の防災用品を製造、販売している業者に、業者の広告を兼ねて回覧板を作らせることは可能ではないか。防災用品を売っているメーカーに、自社の広告として回覧板を作らないかと提案することも可能だ。今の回覧板を作成する広告業者だけを考えると案の表現になるが、作成方法として、他の手法も考えられるのではないかな。

原田委員 メーカーなどに作らせることは、予算の都合もあり難しいのではないかな。

荒井部会長 広告費で回覧板を作り、多摩区全域に広告を打って見ないかと提案する。

藤原委員 半端な数ではない。

荒井部会長 それほどの金額ではないと思う。

石橋委員 要するに回覧板を作成しなさいと提言し、手法についてはその後考えれば良い。

荒井部会長 防災用品そのものを売っているところがある。そこで「身を守る10のポイント」などを記載しながら、自分の広告もしっかり入れたものを作ってもらおう。防災用品の活用方法なども記載することで、自社の広告として有効なのではないかな。もう一つは財団関係が本来的な目的としては作ってはどうかと提案する。

コンサル 作成手法についても、財団や防災用品の販売業者に働きかけるなど、検討の余地があるということだ。

事務局 提案に記載しよう。

安陪委員 1 ページ「現状と課題」について、そもそも私たちは“自助”、“共助”を主眼として検討を進めてきた経緯がある。防災は、個々の人が中心になるのだから、防災意識をそれぞれにしっかり持ってもらおうということを出発した。案の内容でも理解はできるが、個々の防災意識の向上が一番取組やすい、一人ひとりが防災を重要に考えないといけない、ということを目指して問題を提起したということに記載した方が良い。簡単に取り組めるが、個人個人の防災意識が徹底していない。したがって多摩区では身近な取組を始めたのだという意味合いを加えれば、初めて読む人も防災意識を高めようという思いを持つのではないかな。

コンサル おっしゃる通りなので、表現を検討し加えたい。

藤原委員 森永製菓の防災のしおり（事務局が参考に回覧）は良い。多摩区としてこういうものを作り配布することを考えても良いと感じた。そういうものはあちこちから出ている。一般の人はもらっても捨ててしまう。多摩区として作ることで、みんなにPRできる。穴が開いているので、ドアや冷蔵庫にぶら下げておける。

石橋委員 16 ページ「区民会議フォーラムでの意見」は、否定的な意見よりも、こうした方が良いという意見を先に記した方が良い。その他のページについても、発言順ではなく、肯定的な意見をまず記載しその後に否定的な意見を記載する。

荒井部会長 確かに否定的な意見から始まらない方が良い。

大津委員 17 ページ「多摩区版「備える。かわさき」を作成する」は、「 」の中にさらに「 」が出て来るので表記を工夫してもらいたい。

コンサル 提言を囲んでいる「 」を“ ”とし、“多摩区版「備える。かわさき」を作成する”とする。その他の提言についても“ ”とする。

安陪委員 16 ページ右囲み中「家に帰ってきた欲しい」は「家に帰ってきて欲しい」と訂正する。

石橋委員 18 ページ、防災井戸とは言わないのではないかな。

事務局 正式な名称は災害用選定井戸だが、災害井戸が一般的な呼び方だ。災害井戸に訂正す

る。

コンサル コミュニティ部会では、皆さんから意見をもらう締切は設定したのか？

事務局 部会で出た意見を今週中に訂正したものを委員に郵送し、その内容について、とくに期限は決めずに委員から意見をもらい、その意見を踏まえた最終版を次回の部会で提示して最終的確認をすることになっている。

コンサル 自然災害部会は、要援護者名簿の作成方法、避難所の移動等事務局の確認が必要な項目があるので、今週中の訂正は難しい。今月いっぱい訂正したものを委員に郵送する。それを見て気づいた点があれば、各自事務局に連絡する。その結果を踏まえた最終版を2月25日の部会で提示し、皆さんの了解を得たい。

2 その他

事務局が、1月22日（水）に開催される区民会議7区交流会への参加を呼びかけた。

〔スケジュール〕

□第11回区民会議 平成26年2月25日（火） 午後6時～

以上